

2022年度年間指導計画

		園長	主任	担任	
【0歳児】					
年間目標 (育てたい子どもの姿)		園目標		評価・反省	
・保健的で安全な環境確保により安心して過ごせるようにする。 ・人間関係の基礎を培う。 ・個人差に留意した、離乳の完成、歩行の開始、言葉の発生を助ける。 ・見る、聞く、触れる等の経験を通して身の回りのものに対する興味や好奇心を芽生えさせる。		・元気で明るい子(たっぶり遊んで、よく食べて、ぐっすり眠る) ・意欲を持って行動できる子(十分に育ちを見守られながら、さまざまな体験を通して、豊かな感性を育てる)			
期	1期(4月～5月)	2期(6月～8月)	3期(9月～12月)	4期(1月～3月)	
行事	入園式、誕生会、こいのぼり集会、内科検診、避難訓練	懇談会、誕生会、水遊び、七夕、夏祭り、歯科検診、避難訓練	誕生会、十五夜、運動会、内科検診、クリスマス会、避難訓練	誕生会、節分、生活発表会、ひな祭り、お別れ会、卒園式、避難訓練	
ねらい	・家庭との連携を図りながらひとりひとりの生活リズムを大切にし保育者との十分な触れ合いの中で安心して過ごす。 ・健康的で安全な環境の中で気持ちよく過ごす。	・水温や気温に留意し一人ひとりの体調を把握しながら沐浴や水遊びを行う。 ・ずりばい、ハイハイ、つかまり立ちなどそれぞれの全身運動を十分に楽しむ。 ・水や泥で遊ぶ中で「ひんやり」「柔らかい」「ドロドロ」などの様々な感触を味わう。 ・季節の歌やわらべ歌、手遊びを喜んで聴き、体を揺らしたり保育者の模倣をしたりして楽しむ。	・共感的なコミュニケーションを通じて、発語の意欲を持つ。 ・気候や体調に留意し戸外遊びや散歩に出掛自然物に触れ、興味を持つ。 ・登る、降りる、くぐるなど身体を十分に動かす事を楽しむ。	・片言やしくさで自分の思いを伝えようとする。 ・季節の歌やわらべ歌手遊び等を喜んで聴き、体を揺らしたり保育者を模倣したりして楽しむ。 ・寒い冬を健康に過ごす。 ・様々なものとかかわり、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。	
年齢・月齢	3ヶ月～6ヶ月	6ヶ月～10ヶ月未満	9ヶ月～12ヶ月未満	1歳～1歳3ヶ月	1歳3ヶ月～2歳未満
養護	生命 情緒	養護	生命 情緒	養護	生命 情緒
三つの視点	健康 人間関係 環境 言葉 表現	健康 人間関係 環境 言葉 表現	健康 人間関係 環境 言葉 表現	健康 人間関係 環境 言葉 表現	健康 人間関係 環境 言葉 表現
・すこやかに伸び伸び育つ	・特定保育者の十分な関わりにより安心して過ごす。 ・保育者に抱きしめられたり見守られたりしながら一定時間安心して眠る。 ・生理的欲求が満たされ心身ともに安定した気持ちで過ごす。 ・1人ひとりの生活のリズムを把握し、安定を図る。	・保育者に見守られながらぐっすりと眠れるようになる。 ・オムツが濡れていたらかまめに取り替えてもらい気持ち良さを感ずる。 ・家庭の食べ進み具合を見ながら離乳食を無理なく進めていく。 ・園生活に慣れ情緒が安定する。	・食べ物に興味を持ち手を伸ばしたり食材を握ってみたり食べたい意欲を持つ。 ・安定した生活リズムの中で保育者が生理的欲求を満たすことで心地よく過ごす。 ・甘い気持ちを受けってもらい安心して過ごす。	・手づかみやスプーンを使い自分で口に持っていき食べようとする。 ・保護者に抱いたりほほえみかけたりしてもらい甘えなどの依存欲求を満たしてもらい情緒が安定する。 ・食事や前後や衣服が汚れた際は、顔や手を拭いてもらったり、きれいにあった心地よさを味わう。	・喜んで食事しようとし、スプーンを上握りや下握りで持って食べようとする。 ・信頼できる保育者との関係の中で甘えたり喜んだり怒ったりと様々な感情を安心して表現する。 ・自分の欲求をしぐさや言葉で伝えようとする。 ・自分でしたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。
・身近な人と気持ちよく通じ合う	・体調や機嫌に合わせて散歩に行くなど外気に触れ風や音などを感じる。 ・特定の保育者に愛着を持つようになり語りかけてもらうと声を出したり笑顔を見せたりする。 ・目についた玩具に手を伸ばしつかんで振ったり手足を動かす。 ・オムツ交換をしてもらいさっぱりした気持ち良さをを知る。	・歌や手遊びなどを喜び体を揺らしたり手を叩いてみたりする。 ・落ち着いた雰囲気の中絵本を読んでもらったり語りかけてもらう事を楽しむ。 ・喃語に込められている要求や気持ちを受け止めてもらい安心した気持ちで過ごすことが出来る。 ・気になる物や好きな玩具などでハイハイなどで移動し活動範囲を広げていく。 ・手に触れたものをつかんだり、落としたりして遊ぶことを楽しむ。 ・興味のある玩具は手を出してつかみ、見つめたり、しゃぶったり、振ったりして一人遊びを楽しむ。	・指さしや喃語で保育者とのやりとりを楽しむ。 ・自分の身の周りのものに興味を示し活発に探索活動をする。 ・保育者と一緒に絵本を見ながら簡単な言葉の繰り返しを楽しむ。 ・ハイハイやつかまり立ち、伝い歩き等、できる運動能力で移動したり体位により見える視界の違いを楽しむ。 ・様々な素材(砂・水・小麦粉・粘土等)に触れ、感触遊びを楽しむ。 ・歌や音楽に興味を持ち、リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。 ・戸外や散歩に行くことを喜び、解放感を味わう。 ・ゆったりと遊べる環境の中で保育者と一緒に楽しさを共感し喜ぶ。 ・物を持つ、つまむ、引っ張るなどしながら、探索を楽しむ。	・意欲や興味に合わせてオマルに座ってみる。 ・つまむ、叩く、入れる、引っ張るなど指先や手を使って遊ぶ。 ・安心出来る保育者の見守りの中で一人遊びを十分に楽しむ。 ・自然物に興味を示し握ったり感触を楽しむ。 ・ハイハイや伝い歩き・歩行など探索活動が盛んになり、周りへの関心が高まる。 ・喃語を発し、応答してもらう事を喜んだり簡単な一語文を言ったりする。 ・絵本の読み聞かせなどを通して、言葉のやり取りを楽しむ。 ・友だちへの関心が現れ同じことをしようとしたり物の取り合いをしたりする。 ・絵の具や新聞、花紙、スライムなど素材の感触を楽しんだり、色の違いを見て楽しむ。	・オマルや便座に興味を示し自らオマルに座って排泄しようとする。 ・自分で服やズボンや靴を脱いだり介助されながら着ようとする。 ・友達への関心が現れ同じ事をしようとしたり物の取り合いをしたりする。 ・戸外で砂・水・泥や草花などの自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友だちとごっこ遊びや模倣遊びを楽しむ。 ・全身を使う遊びを多く取り入れ体を十分に動かすようにする(登る・降りる・跳ぶ・くぐる等)。 ・身近な音楽に親しみながら、リズムに合わせて身振り表現をする。 ・保育者へ話しかけを喜んだり、自分から片言を話すことを楽しむ。 ・いたずらを許容するゆとりをもち、最低限の「してはいけないこと」を具体的に知らせていく。 ・クレヨンや絵の具を使い指先を動かすことで色が広がることを目で見たり、楽しさを感ずりたりする。 ・保育者の簡単な手伝いを喜んでしようしたり、友だちとの関わりを多く持つようになったりする。 ・話していることを理解し、簡単なやり取りを楽しむ。
環境と配慮	環境と配慮	環境と配慮	環境と配慮	環境と配慮	環境と配慮
・登園時保護者から聞き取りを行いひとりひとりの体調や家庭での様子を把握していく。 ・子どもの機嫌良く過ごせる時間帯や授乳の時間を把握し安定して過ごせる様にする。 ・オムツが汚れたら優しく言葉を掛け、こまめに取り替える。	・玩具や手の届く場所はこまめに消毒を行い衛生的で安全な環境を整える。 ・月齢に合った玩具を用意し誤飲が心配な玩具は取り除く。 ・ゆったりとした雰囲気でもらべ歌やリズムの歌などを歌い、優しく揺らしたりしながら心地良い時間を過ごせるようにする。	・活動範囲が広がり活発に動くようになるので目を離さずに子どもに背を向けず保育者が傍につき怪我や事故を防ぐ。 ・子ども一人ひとりの表情や声などの表し方を理解し、共感し受け入れながら安心して過ごせるようにする。	・戸外では個々の様子を見ながら安全に十分留意し、戸外で過ごす気持ち良さや楽しさを感ずられる様にする。 ・玩具や環境を整え、一人遊びが十分に楽しめるようにする。 ・喃語や身振りに対して応答的に関わり、心地良さを感ずられるようにする。	・友達への関心が強まり気持ちのぶつかり合いや玩具の取り合い、噛みつきなどが出てくるので傍につき怪我につながらないよう防いだり、玩具の数を調整したりする。 ・絵本の読み聞かせをしたり、子ども一人ひとりの気持ちを言葉にしたりして言葉の獲得ができるようにする。	
支援者	支援者	支援者	支援者	支援者	支援者
・園での様子をこまめに伝えたり保護者の思いを受け止め家庭と連携する。 ・出来るようになったことや友だちと遊んでいる様子を伝え成長を喜びあう。 ・季節に合った服装を用意してもらう。 ・食材チェックやミルクでの授乳等家庭で積極的に行ってもらう様子を共有し連携する。			・思い通りにいかなかったときの噛みつきやひっかきを未然に防ぐ為に環境設定を配慮している事を伝え、保護者が不安にならないようにする。 ・感染症にかかりやすくなるため、健康状態について連絡を密に取り合う。	・自分でしたい気持ちを受け止め、援助をしたり言葉を掛けたりすることで意欲へとつながることを知らせていく。	
食育	食育	食育	食育	食育	食育
・落ちついた雰囲気の中で目を合わせながら授乳を行う。 ・一人一人に合った離乳食を用意してもらいゆっくと丁寧に食べさせてもらう。	・子どもの咀嚼などの発達に応じて食品の種類、量、大きさ、固さなどを配慮し徐々に進めていく。 ・一人一人の食べるペースに合わせて丁寧に関わる。 ・離乳食を「段々と食べ進めていく中で様々な素材に触れ、食べることを楽しむ。	・離乳食や普通食を喜んで食べ、いろいろな食材を味わう経験を通して自分から進んで食べていけるように促す。 ・一人ひとりに合わせて、スプーンや手づかみで食べることを経験できるようにする	・食べ物に興味を持ち、スプーンやフォークで意欲的に食べられる様に工夫していく。 ・保育者と一緒に食べる楽しさを味わいながら色々な食材に親しめる様にする。	・スプーンの手持ち方や簡単なマナーなどを丁寧に知らせていく。 ・個々の様子に合わせて苦手なものでも食べてみようとする。	